

ここが知りたかった!  
家庭菜園の  
基礎知識

# 野菜作りを はじめよう!



## 第5回 タネと苗の 見分け方・扱い方

板木技術士事務所 所長  
板木 利隆

### よいタネ(種子)を 入手するには

野菜の多くはタネをまいて育てる  
ので、まずよいタネを手に入れるこ  
とが大切なのは申すまでもあります  
よ。

よいタネの条件としては、  
品種の持つ遺伝的特性を十分備え  
ていること  
よく充実し、発芽力が優れている  
こと

病害虫に侵されていないこと

タネ以外の混雑物がないこと

などです。いくら優れた性質の品種  
でも採種の際に他種と交雑していた  
り、発芽が悪かつたりしては困

りものなのです。

近年は採種や選別の技術が進歩し、  
貯蔵設備も完備され、品質管理がよ

くなってきたので、不良品は大変少  
なくなってきましたが、何分にもタ  
ネは生き物ですから、トラブルが皆  
無になったわけではありません。栽

培の基本になるタネですから、十分  
注意して買い求めることが大切です。

一般的に、タネは農産種苗法によ  
り、種類ごとの標準発芽率(何%以  
上)が定められており、発芽率や採  
種地などを明示することになっています  
から、タネ袋の裏の記載事項(第  
1図)をよく見て、信用のおける発

売元で、発芽率(調査時点がいつか  
も確認)に問題のないものであるこ  
とを確認してから買い求めるように  
しましょう。

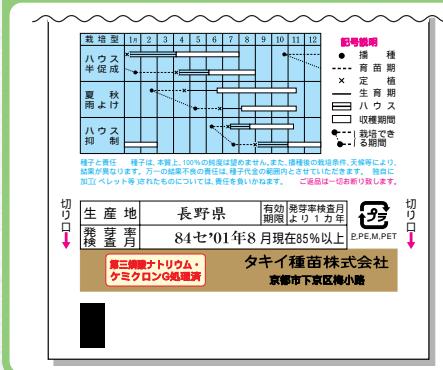
多く出回っている種類や品種なら、  
最近では各地の店舗で売られています  
場合が多いので、一袋買い求めても  
余ってしまうことが時々あります。

家庭菜園ではタネは少量で足りる  
場合が多いので、一袋買い求めても  
余ってしまうことがあります。  
また、容易に入手できない貴重なタ  
ネなので、少しずつ大切に使いたい  
などという場合もあります。

このような余りタネは、家庭でも  
上手に保存すれば、翌年、翌々年ま

### 余ったタネも 大切に使う

第1図 種子袋の裏面記載の例  
(「桃太郎ファイト」トマトの場合)



り、大手種苗会社等から発行されて  
いる情報誌、カタログなどを参考に  
して、育成元、系列の販売店から直  
接求めることがあります。新品種な  
どは数量に限りのあるものも多いの  
で、早めの手配が必要です。

第2図 使い残ったタネの上手な保存方法



果菜類は一般に高温好みで、育苗に長い日数（ナス・トマト70～80日）、

## よい苗の入手方法と苗の扱い方

開封して取り出すとかなり短い日数で発芽力が低下してしまうので、まぐ直前に取り出すこと、再貯蔵するときは新しい乾燥剤（乾かして再利用してもよい）に取り替えて、すぐにつぶ入するような配慮が必要です。

ただし、こうして貯蔵したタネはでも、十分発芽力を保たせることができます。簡単な方法は、茶筒や海苔の缶を利用する方法（乾燥状態を保ち、冷暗所に置く）です。

ただし、こうして貯蔵したタネはでも、十分発芽力を保たせることができます。簡単な方法は、茶筒や海苔の缶を利用する方法（乾燥状態を保ち、冷暗所に置く）です。

キュウリ・カボチャ40～45日）がかかるし、管理も難しいので、家庭菜園では春植えのものなら苗を購入するのが得策です（苗作りの方法は次号に掲載）。

最近は大変早い時期からたくさんのが店頭に並ぶようになりましたが、それらは苗の品質面でのばらつきがかなり大きいので、苗質を見分ける目を養つて、よい苗を買い求めることが大切です。何しろ果菜類の苗の段階で、収穫果のもとになる重要な花芽がすでにたくさん育っている（大玉トマトの定植適期苗には3段目の花芽まで収穫果10個以上）のですから。

よい苗を選ぶ目のつけどころは、

葉の大きさ・厚さ・

色、茎の太さ・節間

の長さ、蕾の進み具

合、病斑の有無など

です。根の張り具合

も極めて重要ですが、

これは店頭で鉢を外

して見るわけにもい

きません。

次に重要視しなけ

ればならないのは苗

全体の大きさ、生長の進み具合です。最

近は苗の需要の高まり（生産農家も購入苗への依存が増大）から大量に

苗生産されることが多くなり、小さなポリ鉢（径9cmの3号鉢またはそれ以下の径8～7・5cmの鉢）で流通するものが多くなってきました。特に都市部では小さい鉢のものが主流となりました。したがって苗も小さくなった畑に植え付けることです。

寒さを避け、水やりなどの管理も入念にして、大苗に仕上げ、十分に暖

かくなつた畑に植え付けることです。

これはどの果菜類にも共通すること

ですが、特に寒さに弱いナスやピーマン、そして若苗を植えると後で育

ちすぎて困るトマト（ミニは別）で

は、この方法で成功率が大変高まる

ないという結果を招くことが、しば

しばあります。

このような苗の上手な扱い方とし

ては、購入してからひと回り大きな鉢に移し替え（53頁第4図）、よい土を足し、日当たりのよい暖かい所で、

寒さを避け、水やりなどの管理も入

念にして、大苗に仕上げ、十分に暖

かくなつた畑に植え付けることです。

これはどの果菜類にも共通すること

ですが、特に寒さに弱いナスやピーマン、そして若苗を植えると後で育

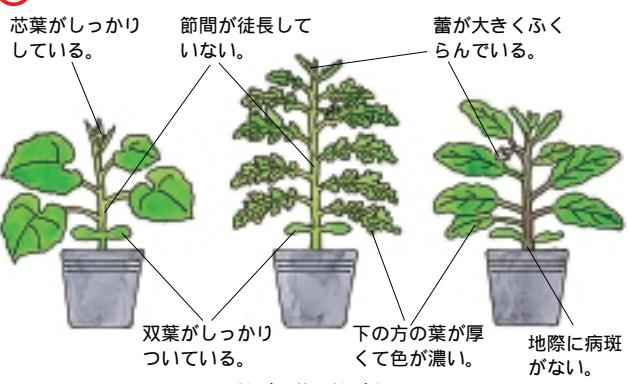
ちすぎて困るトマト（ミニは別）で

は、この方法で成功率が大変高まる

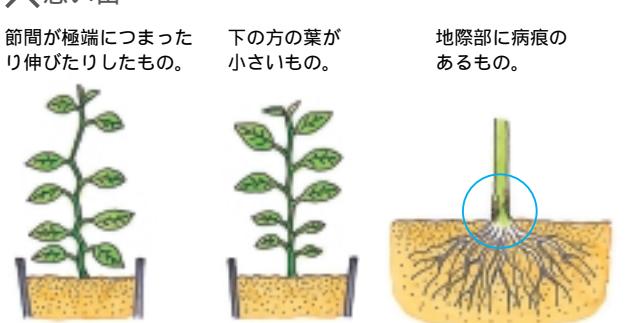
といつてよいでしょう。

第3図 よい苗の見分け方

### ○よい苗



### ×悪い苗



第4図 小さい苗の仕上げ管理



植え付け適期の苗。上からナス、ピーマン、スイカ。

タネまきの方法は野菜の種類（主に草体や根の大きさ、タネの大きさ）や畑の状態（平畠、ベッド、プランター）により相異しますが、代表的なのは **すじまき**、**点まき**、**ばらまき** の三法です。

### すじまき

くわでまき溝を列状に作り、溝全

## タネのまき方

体にタネまきする方法。コマツナ、ホウレンソウ、シブギク、コカブなどの、小物葉根菜類には主にこの方法を用います。また、狭い畑を有効に使つベッド栽培やプランター栽培では、板切れなどで小さな溝をつけてタネまきします。これもすじまきの一つです。溝の底面が平らになるようにして、タネはムラなく丁寧にまき、覆土の厚さができるだけ均一にするのがそろつて発芽させるコツです（第5、第6、第7図）。

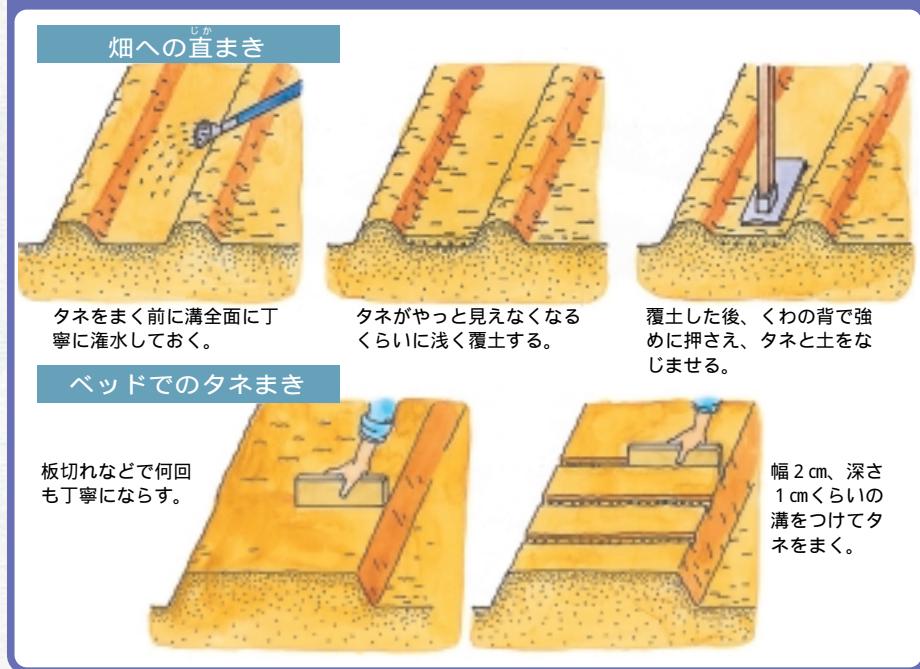


畑ですじまきの作業手順例

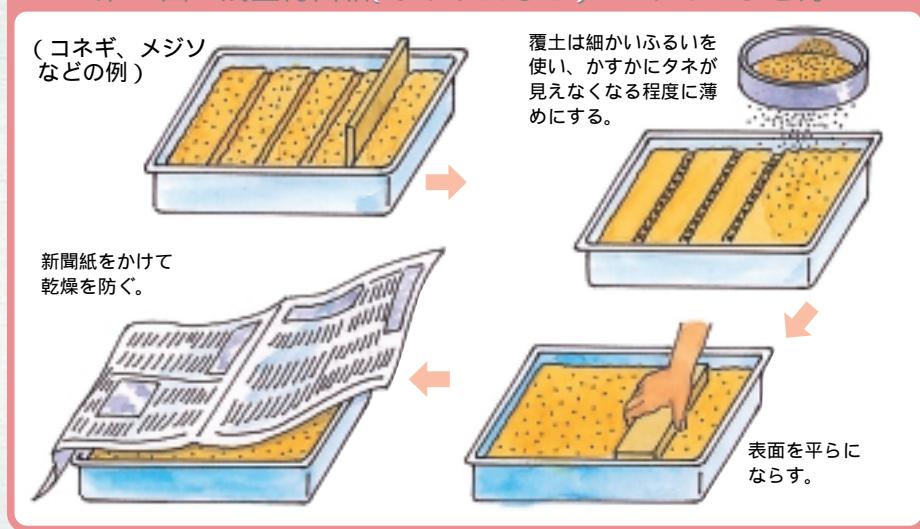
- A**ひもを張り、タネをまく溝の位置を決める。
- B**まき溝に、たっぷりと水分を与えておく。
- C**タネをまく。
- D**まいたタネの上を薄く土で覆う。



第5図 すじまきの仕方



第6図 浅型育苗箱(ポリトロなど)へのタネのまき方



D ベッドでのすじまきの作業手順例

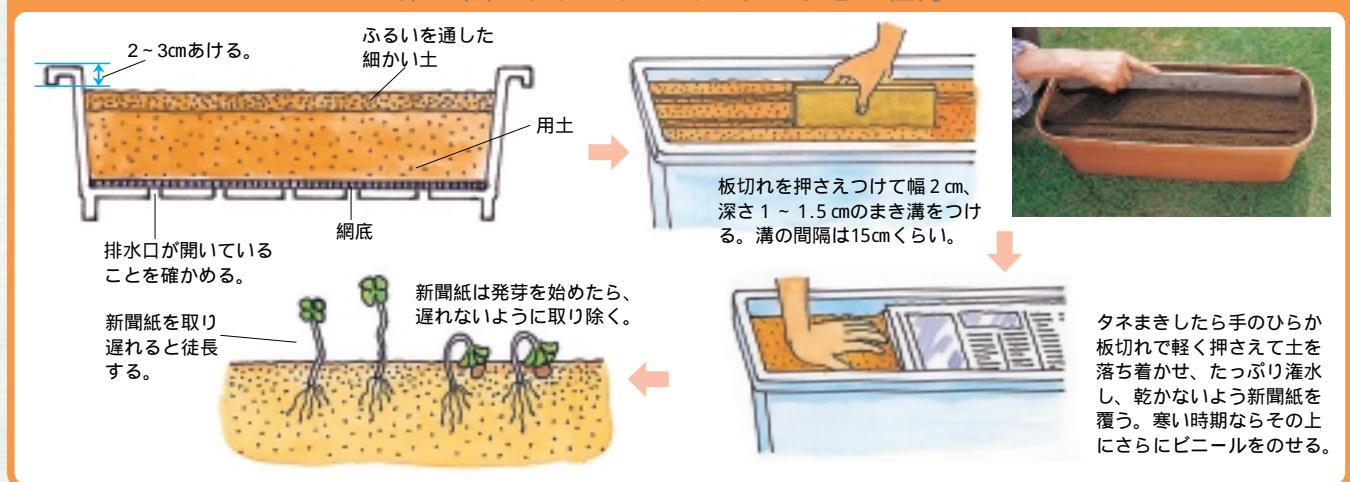
A 板切れなどでまき溝を作る。

B 溝に沿ってタネをまく。

C 溝の両側の土をつまみ寄せて覆土する。

D 板などを用いて表面を押さえる。手のひらで軽く押さえてよい。

第7図 プランターでのすじまきの仕方



くわや小型の除草ぐわなどで小幅のまき溝または小穴を作り、一定の株間の間隔を設けて点々と数粒ずつのタネをまく方法です。タネが大粒で、一株一株が大きく育つマメ類、スイートコーンなどがこの方法を用います。

ダイコンの場合は、株ごとにジュースのビンなどの底を土に押しつけ、輪状の小溝をつけ、そこに円形にタネをまきつける場合もありますが、これも点まきの変形と見てよいでしょう。

ベッドを作り、表面を板切れなどで丁寧に平らにならし、全面に均一にタネを振りまくようにしてまく方法です。草体が小さく、密に育てるほうが能率のよい、タマネギやネギなどの苗床には、この方法を用います。

タネを少量ずつ、指先でつまみ、もむようにしてばらつかせながらまんべんなくまくのがコツです。タネが広い範囲に全面にまかれるので、覆土もふるいを行い、全面にムラなくばらまきかけることが大切です。

### ばらまき

## ..... 今月の菜園作業 5月 .....

### 花も実も人気のオクラをどうぞ

オクラは用途が意外に多く、フヨウに似た黄色の花は夏の観賞用としてもなかなかのもので、身近な庭先菜園やプランターでの栽培におすすめの野菜です。

高温性で、小苗の間は特に寒さに弱く、早植えしすぎると一向に生長が進まずに落葉したりして失敗しがちです。かえって十分暖かくなってから作り始めるのがよく、4月の終わりからタネまきしてもよく育ち、夏の暑さを乗り越えて秋遅くまで収穫し続けることができます。

3号のポリ鉢に4~5粒まきし、育つにつれて間引き、本葉4~5枚で1本立てとし、畝に株間40cmで植え付けします。タネはかたく吸水しにくいので、あらかじめ2~3日ぬるま湯につけ、芽出ししてからまくとよく発芽します。

草丈が30~40cmに伸びるまでは育ちが遅く、その後も葉が掌状五裂なので、あまり込み合いませんから、1カ所に

2株ずつ植え付けて栽培します。1株の花数が少ないので、2本立てで花数を確保した方が、収穫果数が増えて得策です。

草丈が1m以上になると分枝し、次第に葉が込み合ってくるので、適宜摘葉し、各々の葉に日がよく当たるようにします。

葉色や花の咲き具合をよく観察し、肥料切れさせないように15~20日に1回、1株当たり油かすと化成肥料を各大さじ1杯ぐらい、株の周りに追肥します。

収穫は果の長さが6~7cmで、やわらかなうちに行います。育ちが早いので、とり遅れないよう注意してください。果梗はかたく、莢はつぶれやすいので、ハサミを使わないとうまく収穫できません。

